



# FUTURE REPORT 2017

2017.01.01 - 2017.06.30

*FUTURE*

フューチャー株式会社 TSE 1ST SECTION:4722

# ごあいさつ

## グループ経営のシナジーを追求し、 お客様とともに未来価値を最大化します。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

フューチャーグループは、2016年4月に持株会社体制に移行し、フューチャー株式会社を中心に、「ITコンサルティング&サービス事業」と「ニューメディア&ウェブサービス事業」の2WAY戦略で事業を展開しています。

ITテクノロジーを核とする様々な企業群が“賢くて俊敏でコンパクト”なフューチャー株式会社を中心に連携するグループ経営体制は、多種多様なITコンサルティングサービスで培われた知見を基にお客様に新たな付加価値を提供するだけでなく、自らも様々な領域で革新的なビジネスやサービスを発信するポジティブな循環を創出しています。このサイクルを基盤に、「お客様の未来価値を最大化」し、社会にイノベーションをもたらす企業グループへの進化を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2017年9月



フューチャー株式会社  
代表取締役会長 兼 社長 グループCEO  
フューチャーアーキテクト株式会社  
代表取締役会長

**金丸 恭文**



フューチャー株式会社  
取締役副社長  
フューチャーアーキテクト株式会社  
代表取締役社長

**東 裕二**

# 当社グループの現況及び 今後の戦略について

## 2017年12月期 第2四半期(累計)の事業概況

### 2017年12月期 第2四半期のハイライト

**01** 連結売上高は  
前年同期比0.2%増の**172.6億円**

**02** 連結営業利益は  
前年同期比1.3%減の**19.1億円**

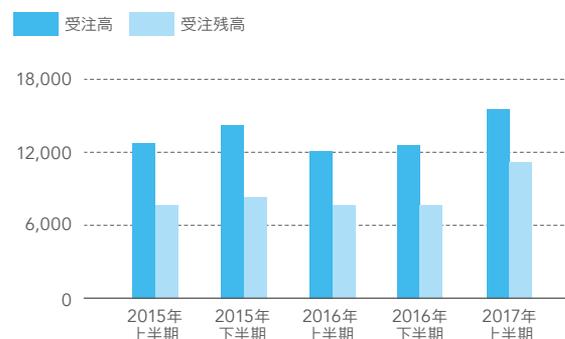
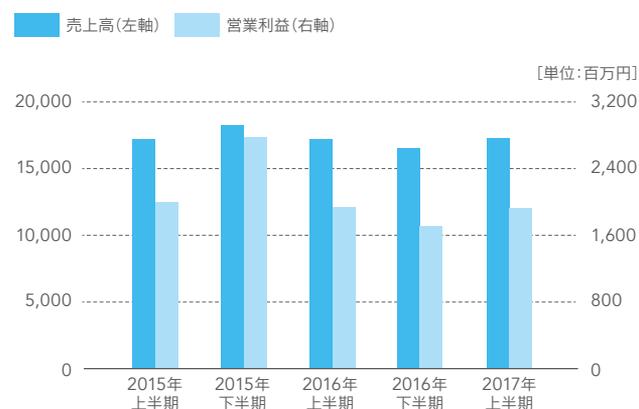
2017年12月期第2四半期(累計)の連結業績は、売上高17,265百万円(前年同期比0.2%増)、営業利益1,912百万円(同1.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,487百万円(同31.7%増)となりました。

ITコンサルティング&サービス事業は、フューチャーアーキテクトが大型プロジェクトの開発完了に伴い、前年同期比で売上高・営業利益ともに減少したものの、新規に連結対象となったワイ・ディ・シーや業績が回復したFutureOneが収益に貢献し、売上高・営業利益ともに増加しました。

ニューメディア&ウェブサービス事業においては、東京カレンダー、eSPORTS、コードキャンプとともに新規サービス等の好調により売上高が増加しました。東京カレンダーは、ページビューの拡大により広告売上が増加して営業赤字が縮小したものの、コードキャンプは人員の採用や広告宣伝費等の将来の成長のための投資により営業赤字が拡大しました。

※2017年第1四半期連結会計期間より、「ITコンサルティング事業」と「パッケージ&サービス事業」を集約し、「ITコンサルティング&サービス事業」に名称変更しています。

[連結] 半期別業績推移



## 今後の成長に向けて

当社グループでは今後、持株会社体制のメリットを活かして各事業会社間のコラボレーションを一層強化し、グループ経営のシナジー効果を最大化することで、お客様に提供する付加価値を向上し、企業価値の増大を図ります。

ITコンサルティング&サービス事業においては、「Future Formula」を活用したレガシーシステムの刷新や専門性の高いアプリケーションクラウドサービスの展開などの当社グループ独自の付加価値をベースに、AIやIoTなどの次世代IT技術の研究開発の成果を加えることで、お客様のビジネスのイノベーションに貢献してまいります。

ニューメディア&ウェブサービス事業では、当社グループのテクノロジーを活用した、オリジナルなサービスを創出するとともに、新たなマーケティングプラットフォームを構築することなどにより、収益基盤の拡大を目指します。

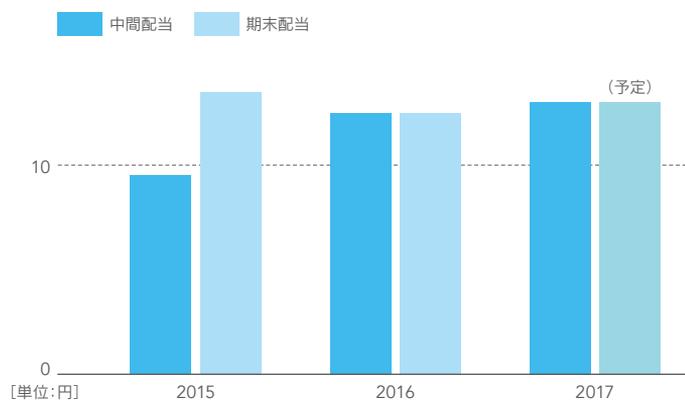
## 株主還元策

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として位置づけ、持続的な成長を図るための内部留保資金を確保しつつ、期間損益、キャッシュ・フローの状況、自己株式の買付状況等を総合的に勘案して、連結の配当性向35%以上を目安に株主還元を実施しています。

この方針に基づき、2017年12月期の年間配当金については1株当たり26円を予定しており、中間配当金については1株当たり13円をお支払いすることを決議いたしました。

【連結】2017年第2四半期実績(累計)

	2017年第2四半期実績	2017年通期計画
売上高	17,265 百万円	36,830 百万円
営業利益 営業利益率	1,912 百万円 11.1%	4,500 百万円 12.2%
経常利益 経常利益率	2,160 百万円 12.5%	4,520 百万円 12.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益 当期純利益率	1,487 百万円 8.6%	2,735 百万円 7.4%



## AI活用コンサルティングサービス「Future AI」の提供を開始

フューチャーアーキテクトは、2017年7月からビジネス環境の急速な変化に対応するためのAI活用コンサルティングサービス「Future AI」の提供を開始しています。

機械学習や深層学習など、AI領域における次世代IT技術の進化は社会全体に大きな変革をもたらす可能性があり、企業経営においてもいかにこれに対応して競争力を強化するかが重要とされています。当社グループではAIやIoTなどの最先端技術の研究開発に力を入れており、これまでも様々な業種・業態のお客様にAIを活用して、自動発注・需要予測のシステムや画像・音声解析サービスなどのアプリケーションを提案してきました。「Future AI」はこれらの実績を重ねる過程で培われた知見とノウハウを活かし、お客様の新しい経営戦略を具現化するために、AI活用のデザイン、技術設計・開発、効果創出までをトータルにサポートします。

### 株式会社高島屋

#### 「顧客の声」音声分析

口頭、電話、メール等お客様の声を自動分析  
商品設計、販売施策、サービス品質の改善

### 株式会社北海道日本ハムファイターズ

#### セイバーメトリクス

プロ野球選手の行動指標を数値化  
ドラフト、選手育成、試合戦術に応用

### 敷島製パン株式会社

#### 需要予測／生産計画

800万を超える意思決定変数をモデル化  
高度な重要予測に基づく最適生産を実行

### 全日本食品株式会社

#### 店舗自動発注

最適発注量、最適発注タイミングを自動算出  
店舗オペレーションの自動化と機会ロスの極小化

### 佐川急便株式会社

#### 伝票画像解析

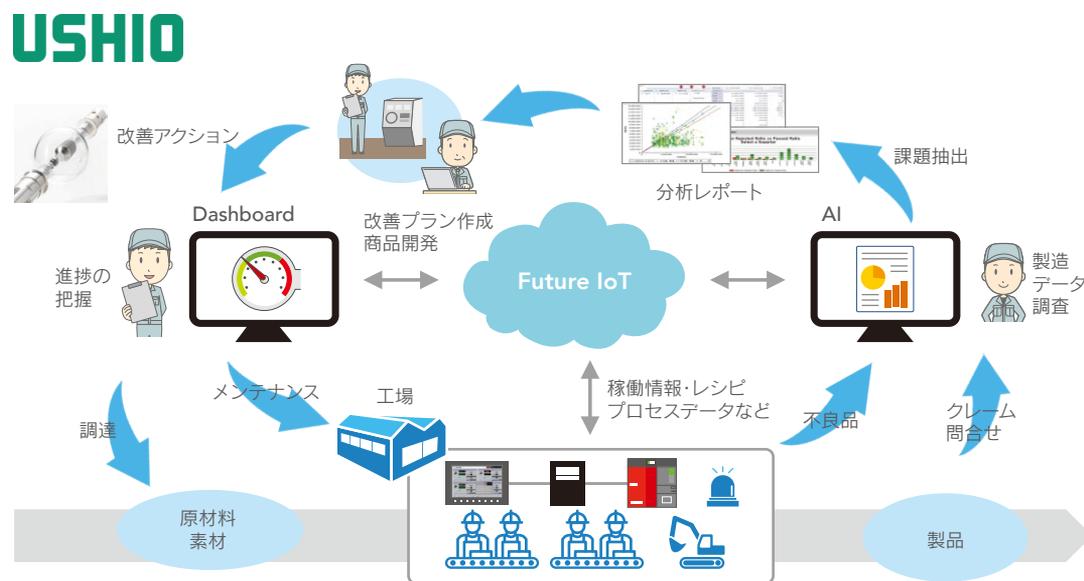
手書伝票の読取り自動化  
数値入力 of 自動化と人手を超える精度向上

# IoTプラットフォームサービス「Future IoT」の提供を開始

「Future IoT」は、生産設備や作業工程から収集した大量のプロセスデータをクラウド上で統合管理し、リアルタイムに分析・運用するIoTプラットフォームサービスです。生産設備をネットワークでつなぎ生産管理や品質管理の精緻なデータをクラウド上に収集・解析することにより、品質や生産性を向上させ収益の増加につなげます。また、ビッグデータの多面的な分析を可能にし、データに基づく経営管理と迅速な意思決定を支援します。

2017年7月にはウシオ電機様向けに、「Future IoT」をベースにしたIoTプラットフォームを構築しました。機器や工場の設備をネットワークに接続して精緻なデータを一元的に管理・解析することより、生産工程における品質と作業者一人当たりの生産性を向上させ、収益の増加につなげることを目指しています。今後はウシオ電機グループ様の国内外の工場にこのIoTプラットフォームを展開していきます。

当社グループは、「Future IoT」を、製造業に関する深い業務知識を有するワイ・デイ・シーやマイクロ・シー・イー・デーとの連携を活かしながら、製造業をはじめとした様々なお客様向けにサービスを提供していきます。

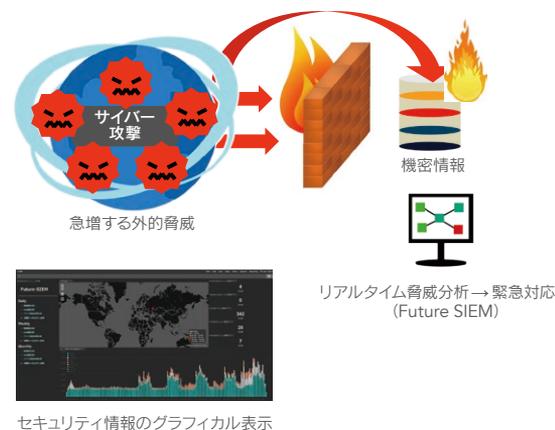


## セキュリティ脅威のリアルタイム分析サービスを提供

フューチャーアーキテクトでは、2017年6月から金融機関や公共機関をはじめ様々なお客様向けに、「Future SIEM」をベースとしたセキュリティコンサルティングサービスの提供を開始しています。

2016年1月のマイナンバー制度開始時に、厳重な情報管理体制と高レベルのセキュリティ対策が求められる金融機関向けに、セキュリティ方針の策定からシステムの実装までを全面的に支援しました。この実績をベースに、効率的なログデータの収集によるセキュリティの監視を体系的に整備したのが「Future SIEM」であり、組織外部・内部からの不正利用・不正アクセス、データ改ざん、ウイルス侵入、情報漏えい、サービス妨害などの幅広いセキュリティ脅威を、リアルタイムに可視化し分析できるようにするサービスです。

当社グループは、今後もAIや機械学習による分析・検知機能を追加することなどによりセキュリティサービスを拡充していきます。



## 電子マネー・ポイント管理システム「Future Pay」を展開

「Future Pay」は、Fintechを活用して電子決済や販売促進をサポートするクラウド型の電子マネー・ポイント管理システムです。大型小売チェーンやホームセンターなど小売業10社を超えて展開しています。

金融機関レベルの高速安定性を確保しており、電子マネー、ポイントカード、ギフトカードのシステムを統合的に提供する機能により、顧客の購買行動分析を基にロイヤリティ向上と売上拡大をサポートします。接続するデバイスも専用決済端末、POSシステム、スマホアプリ、ECサイトと多彩なことから、顧客の利便性の向上に貢献しています。



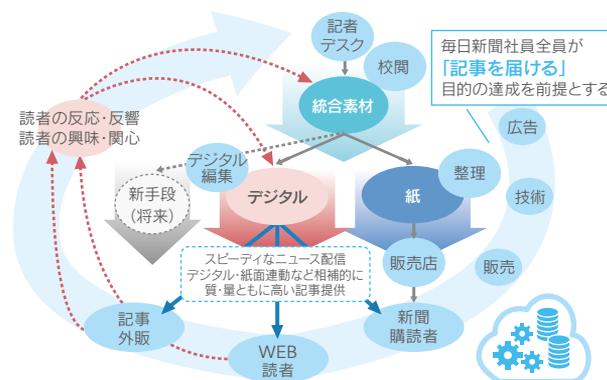
### Fintechとは

「Finance(金融)」と「technology(技術)」を組み合わせせた造語で、ITを活用して金融、決済、財務サービスを革新する技術を総称します。

## 毎日新聞グループ様の次期基幹システムを共同開発

当社グループは、毎日新聞グループ様の業務とシステムを一体に捉えた改革を支援する戦略パートナーとして、次期基幹システムの共同開発を進めています。

スマートフォンやインターネットの普及により激変する読者のライフスタイルに対応し、毎日新聞グループ様では紙とデジタルの両方の長所を活かし、相互に補完・連動させる業務改革に着手しました。新システムでは、記事の入稿から配信までを一貫して管理し、スピーディな配信と読者とのリアルタイムな双方向コミュニケーションを可能にすることで、コンテンツの価値の最大化とメディア業界全体のビジネスの活性化に貢献していきます。



## 「金融クラウド」(銀行向け渉外・融資支援システム)の拡大

「金融クラウド」は、銀行のコア業務となる渉外・融資業務を支える戦略業務系クラウドサービスです。2012年12月のサービス提供開始以来、ご採用いただいたお客様は毎年増加しており、また、個人向け融資、預かり資産対応、格付け・自己査定、電子サインなど「金融クラウド」において提供する機能・サービスを拡充させています。

2017年1月には西京銀行様向けに融資支援サービスをリリースし、5月に群馬銀行様向けに融資支援システムを構築、8月には新生銀行様向けに法人業務統合プラットフォームの開発を開始するなど、前身のシステムである「KeyMan」と合わせ、全国26行に拡大しています。

- 銀行向け渉外・融資システムの顧客基盤群
- 地銀3行を新規受注

総計全国26行に拡大





# フューチャーの業績・財務状況

## 連結貸借対照表 ー決算のポイントー

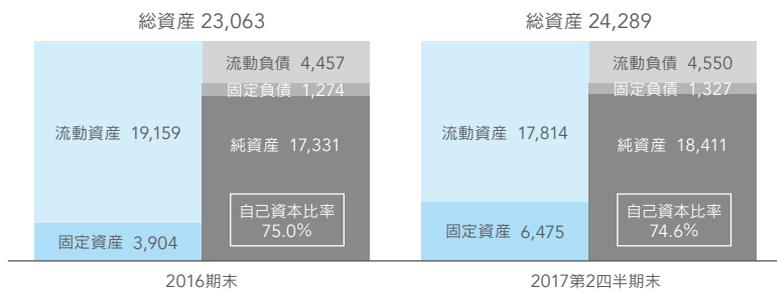
- 総資産は、売掛金やのれん等の増加により、2016年度末比1,225百万円増加
- 負債は、未払金やその他流動負債の増加により、2016年度末比145万円増加
- 純資産は、利益剰余金の増加により2016年度末比1,079百万円増加

[単位:百万円]

	前連結会計年度末 2016年12月31日現在	当第2四半期連結会計期間末 2017年6月30日現在
流動資産	19,159	17,814
固定資産	3,904	6,475
流動負債	4,457	4,550
固定負債	1,274	1,327
純資産	17,331	18,411
総資産	23,063	24,289

## 総資産の推移

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

## 連結損益計算書 ー決算のポイントー

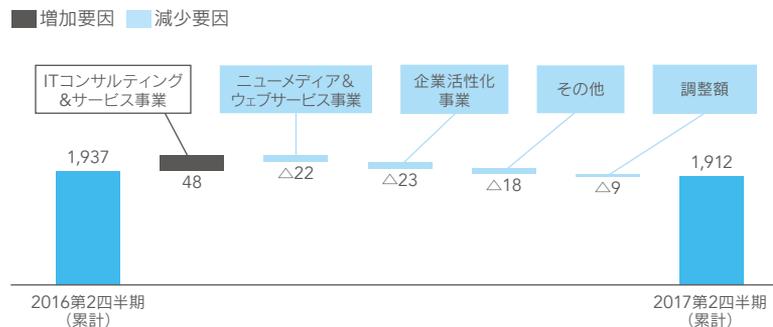
- ITコンサルティング&サービス事業において売上高・営業利益が前年同期比で増加したものの、ニューメディア&ウェブサービス事業における先行投資と企業活性化事業の譲渡による売上高・営業利益減少等が影響し、全体の売上高は前年同期比で増加し、営業利益は減少

[単位:百万円]

	前第2四半期連結累計期間 自2016年 1月 1日 至2016年 6月30日	当第2四半期連結累計期間 自2017年 1月 1日 至2017年 6月30日
売上高	17,225	17,265
売上総利益	6,723	7,026
販売費及び一般管理費	4,786	5,113
営業利益	1,937	1,912
経常利益	1,900	2,160
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,129	1,487

## 営業利益の増減要因

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

## 連結キャッシュ・フロー計算書 ー決算のポイントー

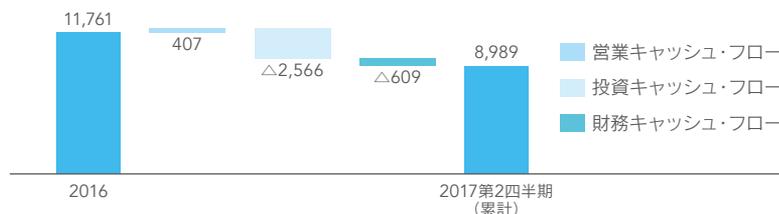
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上等により、407百万円の収入
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、子会社の取得による支出1,681百万円等により、2,566百万円の支出
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払558百万円等により、609百万円の支出

[単位:百万円]

	前第2四半期連結累計期間 自2016年 1月 1日 至2016年 6月30日	当第2四半期連結累計期間 自2017年 1月 1日 至2017年 6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,776	407
投資活動によるキャッシュ・フロー	△34	△2,566
財務活動によるキャッシュ・フロー	△683	△609
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5	△3
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	1,053	△2,771
現金及び現金同等物の期首残高	9,757	11,761
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,810	8,989

## キャッシュ・フローの推移

[単位:百万円]



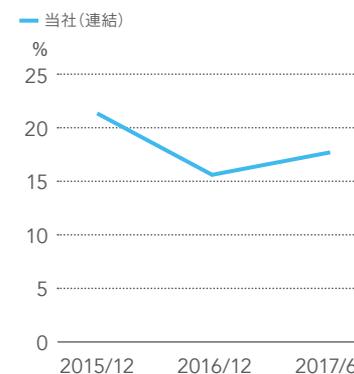
※現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。

## フューチャーの投資指標

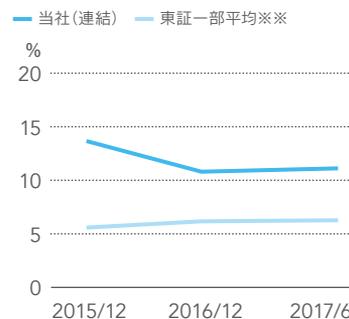
### 自己資本当期純利益率(ROE)※



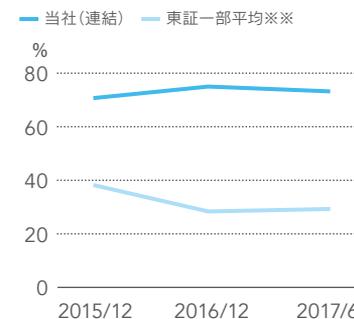
### 総資産経常利益率(ROA)※



### 売上高営業利益率



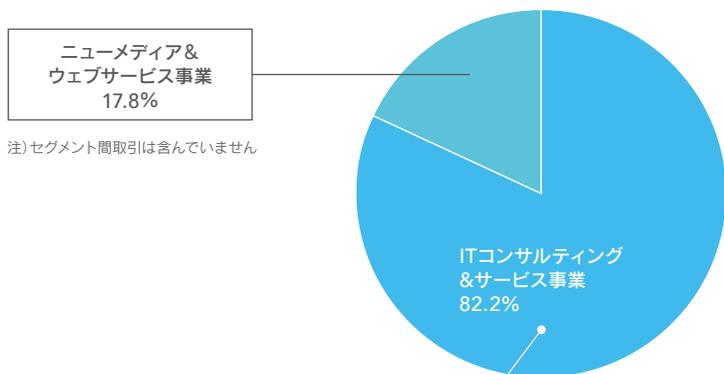
### 自己資本比率



※自己資本当期純利益率・総資産経常利益率の2017年6月の数値は年率換算しております。  
 ※※2015年3月期、2016年3月期、2017年3月期決算短信(非連結を含む)を発表した東証一部上場会社のうち、変則決算会社・各期における新規上場会社・金融業に係る集計対象会社を除いた会社の平均値。  
 (出典:東京証券取引所統計資料)

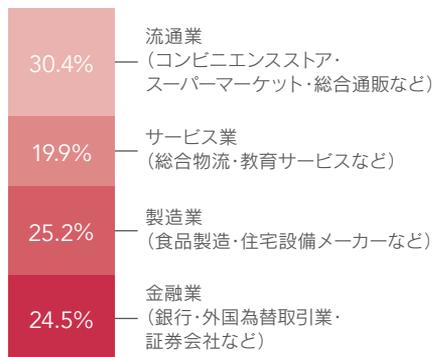
# フューチャーのセグメント別 業績・戦略

## セグメント別売上高構成比 2017年第2四半期(累計)

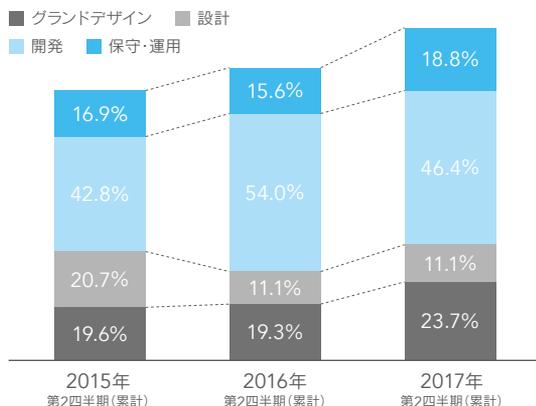


### ITコンサルティング&サービス事業における 業種別売上高構成比

2017年第2四半期(累計)



### ITコンサルティング&サービス事業における フェイズ別売上高構成比推移



※フューチャーアーキテクト、ワイ・ディ・シーおよびフューチャーアーキテクトからフューチャーインスペースに移管した保守・運用案件を合算しています。調達品およびその保守は含んでおりません。

## 2017 上半期レビュー

### ITコンサルティング&サービス事業

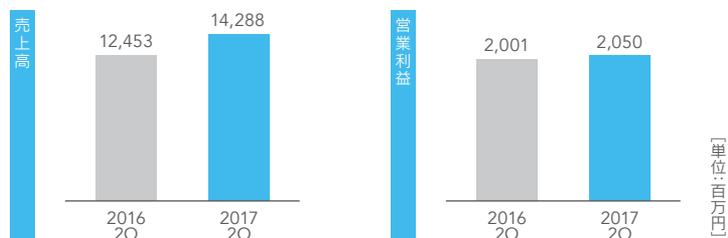
- フューチャーアーキテクトは、新規顧客のプロジェクトや複数の銀行での「金融クラウド」の開発を受注したものの、前年同期で売上の大きかったプロジェクトが開発を完了した影響から、売上・営業利益とも減少
- 新規に連結対象となったワイ・ディ・シーは、製造業を中心にシステムの受託開発や自社製品のライセンス販売が好調
- FutureOneは、中堅企業を中心としたプロジェクトの受注、自社製パッケージソフトのライセンス販売が好調で、売上・営業利益とも前年同期から大幅に改善

### ニューメディア&ウェブサービス事業

- 東京カレンダーは、自社制作の動画コンテンツに注力したことなどにより月間4,000万ページビューに拡大し、ウェブ広告の売上が増加。雑誌販売も第2四半期に好調に推移し、赤字幅が縮小
- eSPORTSは、アウトドア・トレーニング用品の販売が好調で売上は増加したものの、粗利率の低下や輸送費等のコスト増加により営業利益は減少
- コードキャンプは、オンラインプログラミング講座の売上が増加し、新規サービスが売上に貢献した一方、人員採用や広告宣伝費等の先行投資により営業赤字が継続

## 2017 上半期実績

### ITコンサルティング&サービス事業

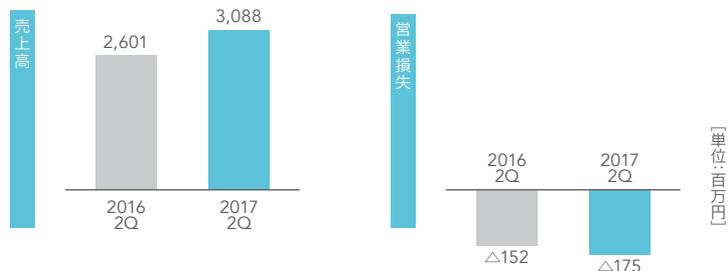


## 今後の見通し

これまでの経営革新・業務改革・システム改革を三位一体として捉え、最新のIT技術や自社製のコンポーネントを活用して、グランドデザインから設計、開発、保守運用まで一貫したサービスを提供するITコンサルティングの戦略を継続しつつ、AI、IoT、ビッグデータなどの最新のIT技術の研究開発を進めることにより、顧客の具体的な課題の解決やイノベーションにこれまで以上に貢献してまいります。

また、当社グループでITコンサルティング&サービスを提供するフューチャーアーキテクト、フューチャーインスペース、FutureOne、マイクロ・シー・イー・デー、及び今年1月に連結子会社としてグループに加わったワイ・ティ・シーとのコラボレーションの強化を図ることで、顧客に付加価値の高いサービスを提供します。

### ニューメディア&ウェブサービス事業



東京カレンダーは、今年3月に取得したマッチアラム株式会社と連携して、ライフイベント支援の新サービスの展開を進めるとともに、ユーザー自らもコンテンツを発信できるコミュニケーションプラットフォームへの進化を目指してまいります。

eSPORTSは、トレーニング用品やカジュアルバッグなど戦略的な品揃えを強化してまいります。同時にオンラインフィットネスサービス「ポケットジム」などの新しいサービスの拡充と、当社グループのテクノロジーを活用した売れ筋分析やカスタマー対応の進化を図ります。

コードキャンプは、法人向けプログラミング教育の強化と転職支援のためのプログラミング教育サービスの拡大により、収益基盤の確立を図ります。

- ※1 2016年4月1日付で持株会社体制への移行により組織体制を整備したため、2016年第2四半期連結会計期間より、従来「ITコンサルティング事業」に含めていたグループ運営に係る費用をセグメント利益の調整額に費用として計上する方法に変更し、各グループ会社からの業務委託料やグループ成長支援料等をセグメント利益の調整額に収益として計上する方法に変更しています。
- ※2 2017年第1四半期連結会計期間より「ITコンサルティング事業」と「パッケージ&サービス事業」を集約し、「ITコンサルティング&サービス事業」に名称を変更しています。なお、2016年第2四半期連結会計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分および測定方法に基づき作成しています。
- ※3 2016年9月7日付で「企業活性化事業」を構成していた株式会社魚栄商店の全株式を売却したことにより、2017年第1四半期連結会計期間より「企業活性化事業」を報告セグメントより除外しています。

## 会社概要(2017年6月30日現在)

会社名 フューチャー株式会社  
英文社名 Future Corporation  
設立 1989年11月28日  
資本金 14億21百万円  
従業員数 1,845名(連結)

## 役員(2017年6月30日現在)

代表取締役会長 兼 社長 グループCEO  
取締役副社長 ITコンサルティング統括  
取締役副社長 CTO&CSO  
取締役 フューチャー経済・金融研究所所長  
取締役(常勤監査等委員)  
取締役(監査等委員)  
取締役(監査等委員)  
取締役(監査等委員)

金丸 恭文  
東 裕二  
石橋 国人  
原田 靖博  
牧 保  
川本 明  
三田村 典昭  
渡邊 光誠

## 主要な連結子会社の状況(2017年6月30日現在)

■ フューチャーアーキテクト株式会社  
■ フューチャーインスペース株式会社  
■ FutureOne株式会社  
■ 株式会社マイクロ・シー・イー・デー  
■ 株式会社eSPORTS  
■ 東京カレンダー株式会社  
■ コードキャンプ株式会社  
■ フューチャーインベストメント株式会社 他11社

## 主な事業所(2017年6月30日現在)

本社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2  
アートヴィレッジ大崎セントラルタワー  
TEL : 03-5740-5721 FAX : 03-5740-5820  
大阪オフィス 大阪市中央区  
(フューチャーアーキテクト株式会社)  
本社 東京都品川区  
大崎ウエストオフィス 東京都品川区  
ThinkParkオフィス 東京都品川区  
鹿児島オフィス 鹿児島県鹿児島市

## 株式の状況(2017年6月30日現在)

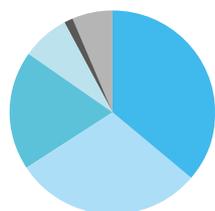
発行可能株式総数 189,376,000株  
 発行済株式の総数 47,664,000株  
 株主数 5,726名

### 大株主

(2017年6月30日現在)

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
(有)キー・ウェストネットワーク	13,516	28.36
金丸 恭文	5,558	11.66
フューチャー(株)	2,958	6.21
SGホールディングス(株)	2,000	4.20
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224	1,392	2.92
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE-HCRO0	1,215	2.55
GOVERNMENT OF NORWAY	1,044	2.19
日本マスタートラスト信託銀行(株)[信託口]	1,024	2.15
(有)クロスシティ	957	2.01
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)[信託口]	683	1.43

### 株式の所有者別状況



● その他国内法人	17,296 千株	36.29%
● 個人・その他	14,090 千株	29.56%
● 外国人	9,015 千株	18.92%
● 金融機関	3,609 千株	7.57%
● 金融商品取引業者	693 千株	1.45%
● 自己株式	2,958 千株	6.21%

#### ○ ご注意 ○

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。  
 口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっております。  
 上記特別口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取り扱いさせていただきます。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 株主メモ

決算期 12月31日 期末配当 12月31日  
 定時株主総会 3月 中間配当 6月30日

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社  
 (連絡先・照会先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

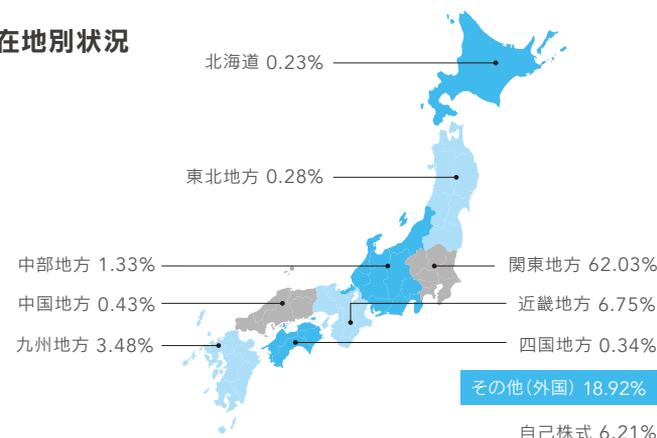
フリーダイヤル:0120-782-031

ホームページ: <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告掲載URL <http://www.future.co.jp/hd-ir/notice/index.html>

ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合には、日本経済新聞に公告いたします。

### 株式の所在地別状況



#### 注意事項

本レポートには、現時点における情報に基づいた将来にかかわる予測が含まれております。それらは今後の日本経済やITサービス業界の動向などにより、変動する可能性がございます。従って、当社がその確実性を保証または約束するものではないことも予めご承知おきください。

# FUTURE REPORT 2017

フューチャー株式会社

本社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2  
TEL:03-5740-5721 FAX:03-5740-5820

<http://www.future.co.jp/hd>